

変革期を迎えた日本農業

チッソ旭肥料株式会社
常務取締役 知念 弘



いたしております。また昨年からは、光分解性機能と生分解性機能の被膜を併せ持った『エコロング®』を上市いたしました。

あけましておめでとうございます。
平成14年の年頭に当たり、読者の皆様のご多幸とご繁栄をご祈念申し上げます。

さて昨年を振り返りますと、アメリカ大リーグで日本人選手の活躍がみられるなど明るいニュースがありました。

しかし年初からの不景気は一向に改善する兆しが見られない中で、アメリカで起きた同時多発テロ事件は、アフガンでの戦争へとつながり国内外の不景気は一層深刻さを増しております。

本格的IT時代の幕開けによる、景気上昇を期待していた経済界は、底の見えない不況が依然継続しています。

一方国内の農業分野では、ねぎ・生しいたけ・豊表三品目について、一般政府ガードの暫定処置が発動されました。また、狂牛病(BSE)が発見され肥料業界も大混乱に陥りました。

このような中で農水省は、食糧自給率向上策とは別に構造改革策の一貫として環境問題への対応、少子化・高齢化への対応等を二十一世紀の重点的政策課題として取りあげました。

これらの問題について弊社は、先取りする形で被覆肥料『ロング®』・『LPコート®』を発売

その他緩効性窒素肥料『CDU®』、硝酸系高度化成『磷硝安加里®』、泡状高度化成『あさひポラス®』、棒状打ち込み肥料『グリーンパイル®』、法面緑化向け『ハイコントロール®』、育苗床土資材『与作®』等の製品も上市して高い評価をいただいています。

グローバル化が一層進む中で、日本農業は数多くの問題点を抱え、それらの改革・対応策のスピードを上げる必要が叫ばれています。

まさに待ったなしの変革期を迎えたと言えるのではないのでしょうか。

弊社はこれらの課題について、少しでもお役に立てればと更なる研究開発を進めて参ります。

おかげさまで『農業と科学』は発刊して32年を迎えます。今後はより身近なテーマをさらにわかりやすい記事内容でお届けさせていただく所存です。

皆様の変わらないご指導ご支援をよろしくお願ひ申し上げます。

本年も本誌をご愛読いただきますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

本号の内容

§ 変革期を迎えた日本農業	1
	チッソ旭肥料株式会社 常務取締役 知念 弘
§ 堆肥又は緩効性窒素肥料の施用が土壌からの 亜酸化窒素ガス発生量に及ぼす影響	2
	静岡県静岡工業技術センター 健康食品プロジェクトスタッフ 技術参与 若澤 秀幸
§ 富山の治水に貢献した蘭人技師(ムルデルとデ・レイケ)	6
(一) ムルデル	富山県郷土史会常任理事 デ・レイケ研究会員 前田 英雄
§ 加賀能登の特産・伝統野菜(4)	11
	石川県農業情報センター 主任農業専門技術員 今井 周一
§ 我が国の農産物需給の実態	14
	チッソ旭肥料株式会社 技術部 顧問 安田 環